

## 2007 年度 第 2 回 金融機関関連ワークショップ(2008.03.11 at 東京)

### 委員長挨拶 (西岡委員長)

最近の状況認識を話すと、一つには、ITコーディネータの認知度がまだまだ十分ではないということです。ITコーディネータとは何か、というメッセージをさらに世の中に強力に発信して認知度をあげていかねばなりません。もう一つは、これまでの業務開発・広報委員会の活動のやり方を変えるということです。ITコーディネータ協会が主導して各届出組織を引っ張っていく形で行ってきましたが、本来は、届出組織やITコーディネータ自身から、「自分たちの地域でワークショップを開くので、ぜひ協会も参加してほしい」という自立的な形であるべきと考えます。

業務開発・広報委員会の活動としては、この3年間同じテーマを掲げて推進してきました。委員長としては、新規の価値ある活動ができないなら委員会は解散してもいい、という覚悟で、次の年度の活動計画を検討しています。委員メンバーから新しい提案もあり、次の計画に盛り込もうとしています。従来、第二のテーマの「ブランディング」という活動を主とし、第一のテーマの「ITコーディネータのビジネス市場確立」を継続テーマとして第二とします。

本来、ブランディングは、自分の経験で言えば、莫大なお金がかかるものです。そこで、お金の余裕のない委員会としては、「ITコーディネータとは、ITと経営に強いコンサルタント」というキャッチコピーを定め、ITコーディネータ自身の口で広めてもらう運動を開始しました。みなさんの名刺にも印刷して、ぜひ広めてほしい。このコピーは、独立系ITコーディネータがメシを食えるよう応援するものですが、企業内ITコーディネータにとっても、将来の夢につながる意味あるものだと考えています。また、ITコーディネータの活動を簡潔に覚えやすい形で4つに整理しましたが、これも全国のITコーディネータがすべて同じ内容で話せるようにしたい。

IT経営力大賞について、委員長名でメールを発信しましたが、それについて触れます。IT経営力大賞の応募については、委員長からもプッシュし、結果としてITコーディネータ関与案件が140件にもなりました。経済産業省からも非常に評価いただいた。しかし、審査結果を見るとIT経営実践認定企業として47件しか認定されず、約7割が認定外になりました。「この結果はいかかなものか」と経済産業省にも質問状を出しましたが、その後、地域ワークショップで、各地のITコーディネータから情報を得て、認識をあらためざるを得なくなりました。ITコーディネータが作成した資料内容にかなりレベルの低いものがあったという意見、一方、きちんと内容の整理ができていれば、十分に認定結果に反映されたはずだという意見などがありました。

委員長としては、そうした状況をふまえて今回の結果を真摯に受けとめ、来年度も継続されるIT経営力大賞にむけて、ITコーディネータ自身のレベルをあげ、さらに良い結果を生むように、みなさんの一層の努力をお願いいたします。

(終わり)